

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	21229015	研究期間	平成21年度～平成25年度
研究課題名	高精度の分子遺伝学的評価による食道癌治療成績向上のための包括的研究	研究代表者 (所属・職) (平成26年3月現在)	森 正樹 (大阪大学・大学院医学系研究科・教授)

【平成24年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>本研究は、宿主（遺伝子多型）、疫学環境、腫瘍ゲノムの三位一体研究により、食道癌の治療成績の向上を目指すものである。遺伝子解析においては新たな発見があるなど、ほぼ順調に進展し、そこから、まったく新しい発がん経路と考えられる遺伝子変化をとらえており、創薬の観点からも意義がある。</p> <p>しかしながら、食道癌の抗がん剤治療の指針となる成果はいまだ得られていない。今後の臨床情報と遺伝子解析データとの統合的解析に期待する。</p>	

【平成26年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、十分ではなかったが一応の成果があった。
B	<p>前回採択された基盤研究（S）（H17-H20）の成果を前提に、本研究の応募時に提案された新規のポイント6項目の内、プロテオーム解析、マイクロRNA解析、治療感受性・副作用予測法の三項目に関しては研究成果報告書の研究方法の記述欄によると行った形跡がなく成果の記述もない。また、研究対象を症例1,200例、対照1,200例まで増やすとしていたが研究成果報告書では最終的に何例の解析を行ったかの記述がない。目標点として、ラボデータをベッドサイドに還元できるレベルまで、あるいは外来診療で患者還元を実現するまでなどと研究計画調書には記載されているが、成果はこのレベルに全く到達していない。研究分担者の担った役割も不明である。例えばスーパーコンピュータを用いた解析の成果に関する記述がない。本研究の新規性として最も期待された三位一体解析の成果は、アルコールと点突然変異、多型と飲酒に関しての僅かな記述があるのみで、三解析を同時に行った利点が明らかにされていない。以上より、研究成果報告書に記述された内容から判断すると、研究計画と比較し、その進捗・成果とも極めて限定的なものに終わっている。</p>